

ひき逃げなぜ助けぬ

飲酒運転ばれる・怖くなつた…動機供述

大阪・梅田で会社員の鈴木源太郎さん(30)を車で約3m引きずつて死「させたなど」として、ホストの吉田圭吾容疑者(22)が逮捕されから1週間。遺族らは「逃げずに命を助けて」と訴えるが、ひき逃げ事件はその後も相次いでいる。なぜ逃げるのかどうすればひき逃げをなくせるのか。(左古将規)

「厳罰化」や「救護で減刑」論

「無免許運転で捕まるのが嫌だった」
10日夜、堺市の市道で軽乗用車を運転し、バイクに乗った飲食店パート従業員の女性(61)をねて逃げたとして、自動車運転過失傷害と道交法違反(ひき逃げ、無免許運転)の疑いで11日に逮捕された清掃アルバイトの少年(17)は、そう動機を供述したという。

警察庁の06年の統計では、容疑者が逮捕、書類送検された全国のひき逃げ事件5万723件の逃走の動機は「飲酒運転」(1

93件)が最も多く、事故が怖くなつて」(811件)、「けががたいことないと思つた」(730件)、「無免許運転」(637件)と続く。府警によると、梅田のひき逃げ事件で、梅田のひき逃げ事件で逮捕された吉田容疑者も

ひき逃げ事件の弁護を数多く

経験した高山俊吉弁護士は「ど

んでもないことでした」「捕ま

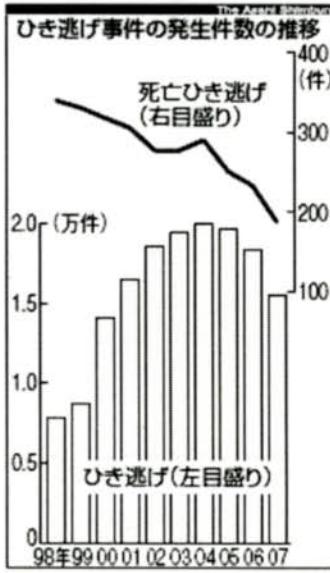
れは重罪」とバニックになつて

逃げる人が多い」とみる。その

結果、軽微な人身事故でも逃げ

るケースがあると指摘する。

松宮孝明・立命館大法科大学院教授(刑法)は、自ら犯行を



中止すれば、刑が減滅されたり免除されたりする「中止未遂」の考え方を導入するべきだと考へている。「危険運転致死罪が適用されるような場合でも、救護すれば刑を大幅に軽くするなど、助けることを奨励する制度が必要ではないか」

一方、「飲酒・ひき逃げ事犯に懲罰を求める遺族・関係者全員による」と主張する。梅田のひき逃げ事件について府警は、吉田容疑者が引き取っていたこと

「死なせた事実直視を」目の前で母を失つた遺族

ひき逃げで家族を奪われた遺族に思いを聞いた。

車はそのまま走り去った。

母の体はぐの字に折れ曲がってガードレール上に引っかかり、すぐわきの川に落ちそうになっていた。救急車で病院に運ばれてから1時間後、母の死を告げられた。その夜、現場近くで当時28歳の女が逮捕された。

美華さんの父は若くして病死し、母が自分と1歳上の兄を育ってくれた。法廷で裁判官が「懲役1年8ヶ月」と実刑判決言い渡したが、納得できず。母はまだ30年も

両山地蔵、01年1月。当時高校1年だった大学生院生の常滑美華さん(23)=兵庫県西宮市=は、母の輝美さん(当時39)がひき逃げされ死した事件の公判で、被告がこう話すのを聞き、「そんなはずはない」と憤った。

事件があったのは00年10月。仕事帰りの母が自転車に乗り、迎えに行つた美華さんが小走りでついていきながら、一緒に帰宅しているときだった。後ろから自分の右肩をかすめるように黒い車が通り過ぎた。「危ない!」

ひきょうなことはない。一人の人間を死なせた事実の重さを直視してほしい。ひき逃げ事件のニュースを聞くたびこう思うという。

国連協議会は今までに約40万人の署名を集め、さらなる

殺人容疑を適用した。

(当時21)

殺人容疑を国に求めている。共同

98年3月に長男の裕介さん

くした大阪府高槻市の松田敏樹さん(58)は訴える。「どうか立

ち止まつて、助ける勇気を持つ

教育が、必要ではないでしょ

う